令和5年3月31日（通巻第216号）

***ボウルズ・ジャパン　ブリテン***

　　　　　　　　　　　発行元：認定NPO法人ローンボウルズ日本　総務部

一般情報など

1. 世界選手権大会（2023年8月、9月オーストラリア・ゴールドコースト）出場選手が決定

　3月19日（日）20:00 – 21:00 ZOOMリモートにて選考委員会会議を開催して検討した結果、次のとおり出場選手男女各5名が決定されました。

|  |  |
| --- | --- |
| 男子 | 長谷部健太、佐藤寿治、大平貴士（以上　オーストラリアクラブ）江村健一（ローンボウルズ東京）、廣内鐵也（LC京都） |
| 女子 | 江村裕子、黒原恵子、松岡　緑、佐藤正子（以上　オーストラリアクラブ）阿比留さゆり（LC京都） |

選考の経緯としては、3月15日までの応募期限に対して2月のアジア大会のチームメンバー

の内、男子2名、女子1名が仕事の都合などの理由により辞退し、代わりに男子はオーストラリアクラブから2名およびLC京都から1名の新規応募があり、女子はオーストラリアクラブ

から1名の新規応募者がありました。

新規応募者はLC京都からの1名の新規応募を除けば、いずれも過去の実績などを評価すれば

十分にアジア大会の出場チームメンバーと同等あるいはそれ以上の戦力となると評価され、

上表のような選考結果となりました。

なお、リザーブ選手については渡航費、滞在費の経費の問題から、希望者がなかったため今回は派遣しないこととなりました。

またチーム内での出場種目の割り当てについては、あと1か月ほどの検討を持って最終決定することとなりました。

以上　　　　選考委員会（メンバー：森　紘一、児島久雄、松原敬之、合田純二）より報告

（２）2022年度優秀ボウラーが決定

　　　　この制度は「多くのボウラーが目標を持ち、やる気を高め、各種大会への参加意欲を強め、

結果として各人が技術向上し、ローンボウルズ界全体の活性化につながること」を目的として

2017年度から発足させたもので、過去は2017,2016,2019年度の3年間に「優秀ボウラー・ラン

キング」を発表し表彰してきました。その後新型コロナ感染対策で日本選手権大会の開催を中止

した2020,2021の2年度はこの制度も中止されましたが、2022年度はすべての日本選手権大会が

開催されまた国際大会も再開されたのでこの制度も復活することになりました。

その結果、2022年度の優秀ボウラーは下表の通りに決定しました。4月9日のBJ理事会におい

て各地区の上位3位までの方に、理事長名による表彰状が当該所属支部長経由で授与されます。

|  |  |
| --- | --- |
| 　関東地区ベスト１０ | 　関西地区ベスト１０ |
| 順位 | 獲得ﾎﾟｲﾝﾄ | 氏名 | 所属クラブ | 順位 | 獲得ﾎﾟｲﾝﾄ | 氏名 | 所属クラブ |
| 1位 |  26 | 安藤英昭 | YC&AC | 1位 |  29.8 | 小山　潤 | ＬＣ京都 |
| 2位 |  21 | 濱田早織 | 2位 |  27 | 合田洋子 | 学園ワイズ |
| 3位 |  20 | 石黒譲二 | 3位 |  25 | 森　紘一 |
| 4位 |  17 | 田中希望 | 東京LBC | 4位 |   22  | 合田純二 |
| 5位 |  14 | 松原　忍 | 坂本紘一 | 神戸ﾀｯﾁｬｰｽﾞ |
| 髙山紗生 | 宮崎宗久 |
| トム・チレル | YC&AC | 7位 |  21.8 | 島　美里 | ＬＣ京都 |
| 安田加津子 | 8位 |  19.8 | 阿比留さゆり |
| 9位 | 13 | 小島弘子 | 9位 |  17 | 藤川辰美 | 学園ワイズ |
| 依田成史 | YLBC | 10位 |  16 | 西條和子 | ＡＬＢＣ |
| 野上京子 | 神戸ﾀｯﾁｬｰｽﾞ |

|  |
| --- |
| 全日本ベスト１０ |
| 順位 | 獲得ﾎﾟｲﾝﾄ | 氏名 | 所属クラブ | 順位 | 獲得ﾎﾟｲﾝﾄ | 氏名 | 所属クラブ |
| 1位 |  29.8 | 小山　潤 | ＬＣ京都 | 5位 |  22 | 坂本紘一 | 神戸ﾀｯﾁｬｰｽﾞ |
| 2位 |  27 | 合田洋子 | 学園ワイズ | 宮崎宗久 |
| 3位 |  26 | 安藤英昭 | YC＆AC | 8位 |  21.8 | 島　美里 | ＬＣ京都 |
| 4位 |  25 | 森　紘一 | 学園ワイズ | 9位 |  21 | 濱田早織 | YC&AC |
| 5位 |  22 | 合田純二 | 10位 |  20 | 石黒譲二 |

2023年3月の行事、活動などの結果

（１）JPC加盟競技団体会議に出席

日時：3月8日（水）17：30～18:30

場所：ZoomによるWeb会議

参加者：日本パラリンピック委員会加盟の各競技団体の代表者

　　　　BJからは森会長、児島理事長が出席

内容：令和５年度の競技力向上事業助成金制度の基本方針の説明があった。

1. 今年度も前年度とほぼ同額の予算をスポーツ庁から承認された。
2. 助成金による成果を評価して配分額に反映する方針をより具体的に適用

することが伝達された。

　　長期計画に裏付けされた事業計画になっているか？

　　長期的に成績（たとえば国際大会での入賞者数など）が向上しているか？

を評価し、成果の出ていない団体への助成金は減らすことになる。

1. ガバナンスコード適合性審査（５年に１回）で１項目でも不適合があった団体

は助成金を申請する資格が無くなる。。

（２）JPCインテグリティ研修会を受講

日時：3月10日（金）18：00～19:00

場所：ZoomによるWeb会議

参加者：日本パラリンピック委員会加盟の各競技団体の役員、事務局長など

　　　　BJからは森会長、児島理事長、藤川事務局長らが参加

内容：不正受給の根絶、代表選手選考の有り方について講師からの解説を受けた。

（３）アンチ・ドーピング教育研修会

主催：BJ障がい者ローンボウルズ部

場所：神戸市しあわせの村研修館　研修室

日時：3月12日（日）13:00 – 16:00

講師：スポーツ・ファーマシスト　浅田圭一氏

内容：１．アスリートの常識としてのアンチ・ドーピングについて

　　　２．意外と身の周りにある禁止薬物について

参加者：選手受講者7名、スタッフ受講者9名

（４）明石公園ジュニア・ローンボウルズ教室（第5回目）を開講

　　　　　日時：3月26日（日）9:30～10:30

場所：明石公園ローンボウルズ場管理詰所

　　　　　実施内容：9:30～10:30 ローンボウルズ・ゲームの基本の解説（座学）

　　　　　　　　　 雨天のため、室内での解説講習のみで終了

　　　　　参加者：受講生6名 (小学生４名、中学生２名)および保護者３名

　　　　　　　　　　本日、１名の新規受講生（小学生）が参加

指導者：６名（森、長島、関口、前林、小林、藤川）

（５）BJ理事連絡会（Zoom Ｗeb会議）令和4年度（第8回）開催

日時：3月4日（土）20：00～22:00

場所：ZoomによるWeb会議

参加者：理事14名、監事１名、事務局長1名　合計16名

内容：直近における情報共有必要事項の発表を行なう。

 主要事項は、次の通り。

１）アジア選手権大会の結果報告

　　　 ２）活動資金の増強策について

（６）BJ理事連絡会（Zoom Ｗeb会議）令和4年度（第９回）開催

日時：3月18日（土）20：00～21:30

場所：ZoomによるWeb会議

参加者：理事10名、監事１名、事務局長1名　合計12名

内容：2023年度のBJ年間事業計画について情報共有および意見交換を行った。

（７）Aリーグカップ2023年前期大会（第5，6節）

主催：関西ローンボウルズ協会

主管：Ａリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時：3月5日（日）、19日（日）13：00～16:00

結果：3月19（日）第6節終了後の成績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | A-1リーグ  | A-2リーグ |
| １位 | 西條 和子（ALBC）　　 66点 | 合田 洋子 （学園ワイズ） 　　 59点 |
| 2位 | 魚住 弘治（兵庫車椅子） 65点 | 南川 義和 （学園ワイズ） 　 56点　 |
| 3位 | 奥田 昭 （ALBC） 62点 | 野上 京子（神戸タッチャーズ） 52点 |

（８）SVリーグ2022年度後期大会（雨天中止分の補充）

主催：関西LB協会主管：SVリーグ実行委員会

リーダー：村人クラブ、会計：ALBC、記録：学園ワイズ

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：3月4日（土）13:00～16:00

競技結果：3月4日で2022年度後期の全日程を終了。最終結果成績は下の通り。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 | 9位 | 10位 |
| チーム名 | 学園-B　 | 学園-A | ALBC | LC京都 | 兵庫車椅子B | 兵庫車椅子A | ﾀｯﾁｬ-ｽﾞA | ﾀｯﾁｬ-ｽﾞB | 村 人クラブ | ﾀｯﾁｬ-ｽﾞC |
| 勝点 | 39 | 38 | 28 | 26 | 26 | 25 | 24 | 22 | 19 | 18 |
| 得失点差 | +55 | +67 |  +10 | +11 | －19 | －18 |  0 | －31 | －20 | －28 |
| 得点合計 | 192 | 207 | 162 | 152 | 141 |  136 | 157 | 130 | 155 | 140 |

（９）Mリーグ2022年度後期大会終了

主催：関西LB協会　主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：3月11日（土）、22日（水）、13:00～16:00

競技結果：2022年度後期リーグ終了時点での成績。

　　　　　（出席率 70%　以上が対象）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 順位 | 氏　名 | 平均ポイント | ポイント合計 | 出場試合数 |
| １位 | 三木　卓（学園ワイズ） | 6.000 | 96.0 | 16 |
| 米田 啓一（生涯スポーツ） | 6.000 | 120.0 | 20 |
| 大杉 正樹（神戸ボウルズ） | 6.000 | 120.0 | 20 |
| ４位 | 宮崎 宗久（神戸タッチャーズ） | 5.889 | 106.0 | 18 |

（１０）2-4-2 ペアーズ大会

主催：関西ローンボウルズ協会

主管：兵庫車いす、ALBC、学園ワイズ

日時：3月25日(土)9:00-17:00

場所：明石市明石公園ローンボウルズグリーン

内容：男女不問のペアーズ大会。一人４球×８エンド戦を１チーム当たり４ゲーム行う。

第１投球者が２球投げたら、第２投球者に交代し4球投げる。そのあと再び第1投球

者に交代して残りの2球を投げる、ということが特徴となっている。

参加チーム数：14チーム

結果成績：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Δ＝総得失点差

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | チーム名（選手名） | 成績 |
| １位 | LC京都-C (小山　潤、廣内鐵也) | ４戦全勝、Δ＝27 |
| ２位 | LC京都-B（田中まち子、吉中康子） | ４戦全勝、Δ＝21 |
| ３位 | タッチャーズ-C（田中弘一、中田照男） | ３勝１敗、Δ＝9 |

（１１）障がい者LB部強化合宿（令和４年度第5回目）開催

　　　　　日時：3月6日（月）18:00～3月8日（水）13:00

場所：兵庫県小野市八池自然公園多目的ドーム（屋内人工芝仮設グリーン２リンク）

助成元：（公財）日本パラスポーツ協会障がい者競技力向上事業助成金により開催

　　　　　参加者：日本パラリンピック委員会登録強化対象障がい者選手４名

およびサポートスタッフ６名

　　　　　実施内容：3月6日（月）18:00 – 19:00 メンタル強化策について討議

　　　　　　　　　　　　７日（火）9:00 – 10;30,13:00 – 14:30 ドローのドリル訓練

　　　　　　　　　　　　　　　　　10:30 – 12;00,14:30 – 16:00 実戦ゲーム（２：２，３：３）

　　　　　　　　　　　　７日（火）9:00 – 10;30 ドローのドリル訓練

　　　　　　　　　　　　　　　　　10:30 – 12;30 実戦ゲーム（２：２，３：３）

2023年4月の計画、予定

（１）2022年度最終理事会、総会、2023年度第1回理事会　開催予定

日時：4月9日（土）13：00～17:00

方式：ZOOMによるリモート会議

議事予定：下表のとおり

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 開催時刻 | 主な議題 | 出席義務者 |
| 2022年度最終理事会（議長：児島理事長） | 13:00 – 14:30(1.5 Hr) | １．2022年度決算書、事業報告書の審議２．2023年度予算書、事業計画書の審議３．その他 | 2021/2022年度の理事 |
| 会員総会（議長：森会長） | 14:30 – 15:30(1.0 Hr) | １．2022年度決算書、事業報告書の承認２．2023年度予算書、事業計画書の承認３．2023年度正会員の退会、入会の承認４．理事、監事の異動の承認５．その他 | 2022年度の正会員（クラブ代表者） |
| 2023年度第1回理事会（仮議長：児島前理事長）（正議長：新任理事長） | 15:30 – 17:00(1.5 Hr) | １．2023/2024年度の理事長、副理事長、会長の選任２．顧問の委嘱の承認３．専門部長、副部長の委嘱の承認４．事務局長、事務局員の委嘱の承認５．各委員等の委嘱の承認６．その他 | 2023/2024年度の理事 |

（２）Aリーグカップ2023年前期大会(第7,8,9,10節)

主催：関西ローンボウルズ協会　　　　　主管：Ａリーグ実行委員会

場所：明石公園ローンボウルズグリーン

日時： 4月2日（日）、16日（日）、5月14日（日）、21日（日）13：00～16:00

　　　　　参加申込み：誰でも参加できます。参加希望者は当日30分前までに来場し受付に申出る。

（３）SVリーグ2023年度　前期大会(第1,2,3,4節)

主催：関西LB協会

主管：SVリーグ実行委員会

LC京都クラブ、神戸タッチャーズ、兵庫車いすクラブが担当

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時：4月1日（土）、22日（土）、5月13日（日）、27日（日）13:00～16:00（12時45分　　　までに受付完了のこと）

　競技内容：10チームが参加し、ペアーズ戦を２ゲーム行う。

（４）Ｍリーグ2023年度　前期大会（第1,2,3,4節)

主催：関西LB協会

主管：Mリーグ実行委員会

場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズグリーン

日時： 4月8日（土）、26日（水））、5月10日（水）、24日（水）13:00～16:00（12時45分までに受付完了のこと）

競技内容：チーム編成は当日の抽選にて決定。参加人数によりペアーズ、トリプルズ、

フォアーズ戦を行う。8エンド戦を2ゲーム行う。

参加申込み：事前申込みは不要。当日、会場への来場で可。チーム編成は当日の抽選にて決定。

（５）明石公園ジュニア・ローンボウルズ教室（第6回、7回）を開講予定

　　　　　日時：4月30日（日）、5月21日（日） 9:30～12:00

場所：明石公園ローンボウルズ場

　　　　　実施内容：9:30～10:00座学

　　　　　　　　　 10:00～12:00 実技

（６）男女フリートリプルズ関西選手権大会　兼　日本選手権関西地区予選会

　　　　　主催：関西ローンボウルズ協会

　　　　　日時：4月15日（土）9時から17時

　　　　　場所： 明石公園ローンボウルズ場

競技方式：男女フリートリプルズ戦

　　　　　参加者：関西ローンボウルズ協会所属の会員。Max14チーム（先着順で締め切り）

（７）明石市総合体育大会ローンボウルズ大会

　　　　　主催：明石市及び明石体育協会

　　　　　主管：関西ローンボウルズ協会及び明石市ローンボウルズ協会

　　　　　日時：4月23日（日）9時から17時

　　　　　場所： 明石公園ローンボウルズ場

競技方式：男女フリートリプルズ、一人×3球、8エンド戦

　　　　　参加者：オープン。Max14チーム（先着順で締め切り）

（８）神戸市長賞大会

　　　　　主催：関西ローンボウルズ協会

　　　　　日時：4月29日（土）9時から17時

　　　　　場所：神戸市しあわせの村ローンボウルズ場

競技方式：男女フリートリプルズ、一人×3球、8エンド戦

　　　　　参加者：オープン。Max14チーム（先着順で締め切り）

会員からの投稿

**国際ルールブック第4版における「意図的な反則」の追加ついて**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　森　紘一（BJ理事、会長）

2023年4月から適用される国際ルールブック第4版の日本語版がそろそろ皆さんのお手元に届くころかと思います。

今回のルール改訂での一番の特徴は、他のスポーツに採用されているIntentional Foulの考え方がローンボウルズにも初めて採用された事であろうと思われますので、以下に解説します。

Intentional Foulとは日本語に翻訳すれば「意図的な反則」となりますが、もっと具体的に表現すれば「悪意をもってわざと犯す反則であって、スポーツマンシップに反する行為」と見なされるもののことです。他のスポーツの先例を挙げれば、バスケットボールにはIntentional Foulがあります。例えば、ゴール下でのポジション争いで相手の身体に接触して押し出そうとしたり、相手の保持しているボールを奪おうとして相手の手や腕を叩いてしまったりという身体的接触をした場合に、レフェリーが笛を吹いてプレーを止めさせ、身体的接触を仕掛けた側の選手にファウルが宣告されます。このファウルの数が５回になるとその選手は退場させられます。これはゲーム中にしばしば発生する普通のファウルであるとみなされ、ファウルをされた側のチームの選手が、その直近のコート外からコート内の味方選手にボールを投げ入れることでゲームは再開されます。

ところが、例えばガードの選手同士でパスを回しているところへ相手チームの選手が飛び込んでパスのカットに成功して、そのままゴール方向に独走状態で抜け出そうとする事態が発生したとします。

そのまま独走を許せばゴールを奪われるのは明白であるので、パスカットされた選手が独走しようとしている相手選手の肩を掴んで独走を止めようとした場合は、ファウルを犯してプレーを止めるがそのままみすみすゴールを奪われるよりは有利であると判断して意図的に犯すずるいファウルであるとみなされて、Intentional Foulが宣告されます。この場合は、ファウルを犯した選手にはファウルをカウントされるのに加えて、犯された選手にフリースロー2本が与えられて、普通のファウルより重いペナルティが科せられます。

　もっと重いペナルティを科せられる例では、サッカーのイエローカード、レッドカードの例があります。Intentional Foulという言葉は使っていませんが、考え方は同じです。相手の保持しているボールを奪おうとしてスライデイング・タックルを敢行するときに、ボールをめがけてタックルの足を延ばしてたまたま相手の足に当たってしまったという場合はイエローカード（この場合は累積カード3回で次回の試合には出場できなくなる）ですみますが、相手選手がゴールに向かってドリブルで独走状態に入ろうとしているときにもうボールに足を延ばすのは到底無理だとわかっているのに相手を止めるために足をめがけてタックルし倒したと見なされる場合や、ひどい場合は相手に怪我をさせてプレーできなくさせてやろうという悪意をもってわざと足にめがけてタックルするということもあったりするので、この場合はレフェリーの判断でレッドカードが出されその場で一発退場（この場合は交替選手も認められないので、チームは1人足りない状態でゲームを継続しなければならなくなる）が科せられます。

　このたびあらたに導入されたローンボウルズの場合はペナルティがもっと重くて、試合が没収されて相手チームに不戦勝が与えられるとなっています。具体的に説明しますと、Aチームの選手がマットの上に立って投球したボウルが走行中である途中においてヘッド側にいたBチームの選手の足に当たって停止させられたりあるいは走行方向を変えられたりした場合は、Aチームは①もう一度そのボウルを投げなおす、または②Bチーム選手の足に当たらなかったら、ここに停止したであろうと想定される位置にそのボウルを置きなおす、または③足に当たって停止させられた位置のままでOKとする、の3つの選択肢の中で、自分のチームにとって一番有利となるものを選択できます。一方、同じチームであるAチームの選手が足に当てて停止させたり（手で止める場合も含まれます）あるいは走行方向を変更したような場合は、そのボウルはデッド・ボウルと宣告されてグリーン上から取り外しバンクの上に

置かなければなりません。これが従来からあるルールであり、ルールブックの規則番号では37.1.1　にこれが記載されています。

ルールブック第4版では、その後に新しく規則37.1.3 が追加されており、これがIntentional Foulの考え方に該当するものです。規則文章は次のようになっています。

「オリジナルコース走行中のボウルが、そのボウルを投じたチームのメンバーによって**意図的に（原文の英文ではIntentionally）**位置ずれさせられたあるいは停止させられた場合、その規則違反をしたチームは当該試合を没収され、相手側に勝ちが与えられるものとする。」

具体的にどういうケースかというと、例えばAチームのリード、セカンドがうまくボウルをジャックの周りに寄せて3ショットを取っていたとします。続いてスキップが投球する番になって更にショットを増やそうとしてドローショットを投げたとします。そのときに少しコースがそれて手前にあったBチームのボウルを押し込んでそれがジャックに寄って形勢を逆転してしまう恐れが発生したので、Ａチームのセカンドがスキップの投球したボウルをＢチームのボウルの手前で止めてしまった、というケース。

あるいはＢチームのボウルは無かったがドローボウルがやや強すぎてジャックを後方に移動して後方にあるＢチームのボウルに寄って形勢が逆転してしまう恐れが発生したので、Ａチームのセカンドがスキップの投球したボウルをジャックに当たる手前で止めてしまった、というケース。

その他、ケースはいろいろ考えられますが、とにかく従来のルールのみであればＡチームのスキップの投げたボウルがデッドボウルとしてグリーン上から除去されるだけで、その後に発生するであろう形勢大逆転の未然防止の状態はそのまま認められる、という従来のルールの盲点を熟知していて意図的に行われるＡチームの選手の悪賢い反則である訳です。

同じ趣旨の規則追加が第4版ルールブックの規則37.1.5.3 にも追加されています。どんなケースであるかは、読者の皆さんで考えてみて下さい。

　それにしてもいきなり不戦敗になってしまうというペナルティはやや重すぎるとも考えられますが、マナーやスポーツマンシップを重視してきたローンボウルズという競技において上記のようなスポーツマンシップに反するプレーが見られるようになった（日本ではまだ誰もこんなプレーはしていませんが）のは、あるまじき行為であって絶対に今後は発生させてはならないというWorld Bowlsの強い意思の表れかとも推察されます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（以上）